

芭蕉

五七五と都留を詠む



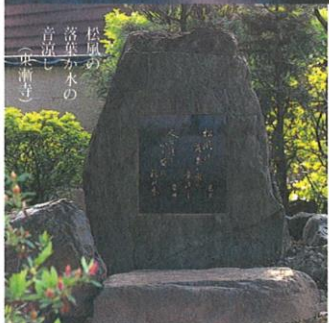
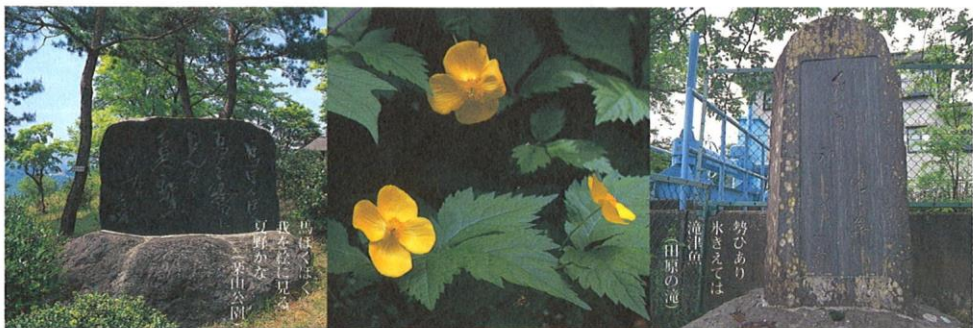
目にかかる
時や殊さら
五月富士
(宝鏡寺)

天和2年(1682)12月28日の江戸大火で焼け出された芭蕉が、俳諧の弟子の秋元家老高山傳右衛門(俳名藥疇)を頼って約半年間にわたり谷村の傳右衛門の屋敷に逗留したといわれています。貞享元年8月に旅だった「のざらし紀行」の帰途、芭蕉は甲州谷村へ立ち寄り、高山傳右衛門との再会を果たしています。

The haiku poet Matsuo Basho journeyed to Tsuru to stay with a disciple when a great fire forced him to leave Tokyo. Today, the "Tsuru Fureai National Haiku Contest" is held in commemoration.

都留市ふれあい全国俳句大会
●応募句数/3,218句(平成11年大会)

写真



以来300余年の歳月を経た今、都留市では芭蕉にゆかりの深い歴史を生かそうと、芭蕉の里づくり事業の一環として「都留市ふれあい全国俳句大会」を平成4年から開催しています。毎年全国各地から寄せられる応募作品は3000句にのぼり、芭蕉が花開かせた俳句文化がこの都留から全国へ広がっています。